

# 年末年始7日間を有効活用 教採的 自己分析をしよう!

周りに民間企業の就職活動のため、自己分析に四苦八苦している友達はいませんか。それを「教員を目指す自分には関係がない」と思っているなら大間違い。教員志望者だからこそ、やらなければならない自己分析があります。就活カリスマ講師の坪田まり子さんと一緒に、「教採的 自己分析」に取り組んでみましょう!

取材・まとめ/編集部

プロフェッショナル・  
キャリア・カウンセラー  
坪田まり子さん



大手国際法律事務所弁護士秘書、大手資格予備校執行役員、専任講師等を経て独立。現在は全国の大学で年200回以上の就活セミナーを行うほか、東京学芸大学特命教授として公務員・民間企業向けキャリア支援を行い、亜細亜大学短期大学部ではコミュニケーション、ビジネスマナーなどを指導している。著書に『就活必修! 1週間でする自己分析2017』『就活必修! 速習7時限面接内定術2017』(共にさくら舎)がある。

## なぜ教師として働きたいのか

—— 一般に教師志望者は、民間企業を受ける人に比べて自己分析をおさなりにしがちと言われています。

坪田 私もそう思っています。民間企業の就職活動のように、自己分析をやらなければいけないという意識が低いように感じます。確かに筆記試験に受からないことには土俵に立てませんので、とにもかくにも勉強で後回しになる気持ちもわかります。それでも、私は思います。「教師や公務員こそ、ちゃんと自己分析をやりなさい」と。

—— その理由については、のちほど伺います。まずは1日目(p83)です。

坪田 1日目は、何のために働くのかを自分に問います。よく「いちばん安定してるから、地元に残れるから、教師や公務員はよさそうだ」という理由で教師や公務員を選ぶ人がいるんですが、これではもちろん面接に受からないのでは? もうひとつよく言われるセリフが「自己実現のため」「利益追求の民間ではなく、公のために働きたい」。これも面接で通用しないでしょう。

—— 社会貢献的な気持ちは結構ですけど、「で、あなた自身はなぜそこで働きたいの?」という肝心な部分に対して的確に答えられていない。

坪田 そうなんです。もっともっと「なぜ社会に出て、真っ先に教師という仕事を選ぶのか」「何のために働く

のか」と自分に問いかけてほしいですね。それが教師として働くことの覚悟の始まりのように思います。

シンプルな「なんで?」「どうして?」という疑問にきちんと答えられる人の共通点は、大学時代からだけの薄い自己分析ではなく、2日目のシートのように、小学校からしっかり振り返っています。それが結果としてぶれない軸をつくることができると私は考えています。

7日目までやり終えたら、なぜ働くのかがはっきりと見えてくるでしょう。ですから1日目には、あまり時間をかけず、ありのままの自分の素直な気持ちを考えてほしいです。1日目は真剣に書いたつもりでも、おそらく、なかなかまとまった答えは出てこないと思います。

—— 1日目は多少粗くても未完成でもいい?

坪田 それで結構です。おそらく、しっかりした答えは、最後までやり終えて、初めて出てきます。出願や面接で相手に伝えないほうがよい気持ちなどが見つかるかもしれません。ここは棚卸し。自分ではまだ判断しないで、最後に他己分析をした結果、もう一回、客観的に見直してください。

—— なるほど。さて、2日目からは具体的なことを書く欄が出てきました。書く際の心構えはありますか。

坪田 私は「泣きながら、鼻水をだらだら流しながらでも、あるがままの自分を書き出して」といつも学生たちに伝えていきます。棚卸しをするときには、とにかく正直に思い出して書く。格好つけて書いたら、終わったとき